和歌山県立古座高校における長期的効果に関する検討

和歌山県古座保健所
田口誠一郎、山下佳代、平井安子、西弘子、富田容子、井川朋子
和歌山県保健環境部
青　木　龍　哉

■ はじめに

思春期における赤ちゃんとの触れ合い体験学習が長期にわたり父性・母性の涵養に役立つか、人工妊娠中絶の防止に役立つかを、昭和63年度から思春期体験学習を実施している和歌山県立古座高校の卒業生を対象に検討した。

検討対象は、地域的特性などによる比較対象者の偏りを避けるために和歌山県立古座高校卒業生に限った。本年度新たに追加した200名を含め、昭和63年度から平成6年度までに古座高校を卒業した1463名に対しアンケート調査を自計式郵送法にて実施し、361名（男性113名、女性248名）から回答を得た。今回はそのうち結婚歴がなく子どもをもたない者327名（男性104名、女性223名）について、触れ合い体験学習を行ったのち1年以上経過しても、体験学習の有無により育児に対するイメージや人工妊娠中絶に対する意識に差がみられるかを検討した。

■ 研究方法

昭和63年度より思春期体験学習を実施している和歌山県立古座高校の卒業生を対象に、アンケート調査を実施した。

体験学習の内容は、古座高校との連携のもと、古座高校での事前学習、古座保健所での触れ合い体験（4カ月児健診時に赤ちゃんの抱っこ・おむつや衣服の着脱・母親との対話など）と保健所保健婦による思春期講座、古座高校での事後指導などから成っている。

平成6年度の古座高校卒業生200名に対して、平成7年12月下旬に、思春期体験学習の長期的効果評価のために作成した自記式アンケートを個別郵送し、本研究班の分析担当である広島大学にて回収した。すでに昨年度、同じ様式のアンケートを送付している古座高校卒業生1263名とあわせ、対象者数は1463名、対象卒業年度は昭和63年度から平成6年度までである。

■ 研究結果

合計361名よりアンケートを回収し得た。

その内、結婚歴がなく子どもをもたない者327名（男性104名、女性223名）について、触れ合い体験学習を行ったのち1年以上経過しても、体験学習の有無により育児に対するイメージや人工妊娠中絶に対する意識に差がみられるかを検討した。

327名中、体験学習経験者311名（男性94名、女性217名、平均年齢21歳）、未経験者13名（男性7名、女性6名、平均年齢22歳）、その他（無回答）3名であった。

経験者と未経験者の例数に大幅な開きがあるため統計学的検討には注意を要するが、全国集計の検討は他施設で行われる予定であること及び本県における思春期体験学習の長期効果を検討するため、検討対象は古座高校卒業生に限定した。

1．赤ちゃんについてのイメージ（表1）

赤ちゃんに対して抱いているイメージに関しては、体験学習の経験の有無による明らかな差はみられないようであった。

表1　赤ちゃんのイメージ

	触れ合い体験の有無 ある (人)	(%)	ない (人)	(%)
1 よく泣いてやかましい	9	(3)	1	(8)
2 弱くて何もできない	15	(5)	0	(0)
3 かわいい	230	(73)	10	(77)
4 元気でのびのびしている	30	(10)	2	(15)
5 たくましい	8	(3)	0	(0)
6 何とも思わない	7	(2)	0	(0)
7 その他	12	(4)	0	(0)
合計	311	(100)	13	(100)

2．親についてどう思うか（表2）

一般的な意味で「親」についてどう思うかという質問に対し、体験学習経験者では「うるさく煩わしい」が8％「ありがたい」が62％に対し、体験学習未経験者では「うるさく煩わしい」が23％「ありがたい」が45％であった。

表2　親について

	触れ合い体験の有無 ある (人)	(%)	ない (人)	(%)
1 うるさく煩わしい	24	(8)	3	(23)
2 注文が多い	22	(7)	1	(8)
3 ありがたい	198	(62)	6	(45)
4 楽しい	11	(4)	1	(8)
5 わからない	33	(11)	0	(0)
6 その他	21	(7)	1	(8)
無回答	2	(1)	1	(8)
合計	311	(100)	13	(100)

3．将来子どもが欲しいと思うか（表3）

将来子どもが欲しいと思うかという質問に関しては、体験学習の経験の有無による特徴的な差はみられないようであった。

表3　将来子どもが欲しいか

	触れ合い体験の有無 ある (人)	(%)	ない (人)	(%)
1 ぜひ欲しい	197	(63)	10	(76)
2 できれば欲しい	75	(24)	0	(0)
3 どうでもよい	12	(4)	1	(8)
4 あまり欲しくない	12	(4)	0	(0)
5 欲しくない	6	(2)	1	(8)
6 考えたことがない	6	(2)	1	(8)
無回答・誤回答	3	(1)	0	(0)
合計	311	(100)	13	(100)

4．子どもが欲しい理由（表4）

子どもが欲しい理由では、「育児をしてみたい」という回答が体験学習経験者には11％みられたが、体験学習未経験者にはみられなかった。

表4　子どもが欲しい理由（3つ以内で複数回答）

	触れ合い体験の有無 ある (人)	(%)	ない (人)	(%)
1 子どもが好き	179	(28)	5	(21)
2 自分を伝える存在が欲しい	90	(15)	3	(13)
3 育児が楽しそう	56	(9)	3	(13)
4 育児をしてみたい	64	(11)	0	(0)
5 子どもがいてこそ夫婦や家庭	109	(18)	7	(28)
6 生み育てるのは人間として当り前	52	(9)	3	(13)
7 親になってこそ社会的に一人前	42	(7)	2	(8)
8 その他	16	(3)	1	(4)
合計	608	(100)	24	(100)

5．人工妊娠中絶について（表5）

「絶対すべきでない」という回答が、体験学習経験者には14％みられたが、体験学習未経験者にはみられなかった。

表5　人工妊娠中絶について

	触れ合い体験の有無 ある (人)	(%)	ない (人)	(%)
1 絶対にすべきでない	42	(14)	0	(0)
2 できるだけしない方がよい	182	(58)	7	(54)
3 やむを得ない時はよい	69	(22)	5	(38)
4 しても構わない	8	(3)	1	(8)
5 わからない	10	(3)	0	(0)
合計	311	(100)	13	(100)

6．赤ちゃんや育児に対する意識（表6）

赤ちゃんや育児についての24の質問項目につき、5段階評価の回答を求め、各段階を1から5の点数として各項目の平均点数を両群で比較した。点数が低いほど“当てはまる”に近く、高いほど“当てはまらない”に近いことをあらわす。有意差検定はt検定を用いた。但し両群の例数に大きな差があるため、検定結果は参考程度にとどめた。

■ 結　果

「赤ちゃんのあやし方がわからない」「赤ちゃんをみると奇妙な感じがする」「赤ちゃんがそばに来ると逃げたくなる」の項目で、体験学習経験者のほうが“当てはまらない”に近い回答を選ぶ傾向がみられ、触れ合い体験を経験することにより赤ちゃんに対する接し方がわかり、親しみをおぼえる効果があると考えられた。

体験学習経験者では「育児は楽しい」と思う回答が多く、「育児でしたいことができない」と思う回答が少ない傾向がみられた。触れ合い体験を経験することにより育児に対し前向きな姿勢が育まれることが推察された。

表6　赤ちゃんや育児に対する意識

			触れ合い体験の有無 ある	ない
1	赤ちゃんは好き	平均	1.53	1.62
		SD	0.86	1.15
2	赤ちゃんを見ていると楽しい	平均	1.51	1.62
		SD	0.83	1.08
3	赤ちゃんと一緒にいるのが好き	平均	1.83	1.92
		SD	1.03	1.21
4	赤ちゃんの世話をするのが好き	平均	2.25	2.62
		SD	1.18	1.21
5	赤ちゃんはかわいい	平均	1.25	1.31
		SD	0.65	0.82
6	赤ちゃんはわずらわしい	平均	3.61	3.46
		SD	1.18	1.34
7	赤ちゃんのあやし方がわからない**	平均	2.80	2.08
		SD	1.18	0.83
8	赤ちゃんをみると奇妙な感じがする**	平均	4.05	2.85
		SD	1.14	1.56
9	赤ちゃんには関心がない	平均	4.26	4.15
		SD	1.07	1.29
10	赤ちゃんがそばに来ると逃げたくなる*	平均	4.47	3.54
		SD	0.88	1.45
11	育児は素晴らしい仕事	平均	1.77	1.85
		SD	0.97	1.17
12	世の中からとりのこされる	平均	3.87	4.08
		SD	1.12	1.14
13	育児で自分も成長できる	平均	1.40	1.77
		SD	0.70	1.25
14	育児は楽しい*	平均	2.52	3.08
		SD	1.02	1.00
15	育児で視野が狭くなる	平均	3.11	3.38
		SD	1.10	1.21
16	育児は女性の生きがい	平均	2.81	2.31
		SD	1.03	1.20
17	育児は男性の生きがい	平均	2.59	2.69
		SD	1.20	1.07
18	育児はつらい仕事	平均	2.52	2.08
		SD	1.11	1.27
19	育児でしたいことができない**	平均	2.30	1.77
		SD	0.99	0.58
20	育児はつまらない仕事	平均	4.21	4.08
		SD	0.90	1.21
21	育児で女性は輝いて見える	平均	2.27	1.77
		SD	0.96	1.12
22	育児で女性は疲れて見える	平均	3.67	4.08
		SD	1.06	1.07
23	育児で男性は輝いて見える	平均	2.65	3.00
		SD	1.00	1.30
24	育児で男性は疲れて見える	平均	3.73	3.77
		SD	0.99	1.19

1 あてはまる ～ 5 あてはまらない　　**P<0.01　*P<0.05

■ 考 察

清水らによる平成6年度の当研究の全国集計の検討結果では、体験学習経験者は赤ちゃんの世話をするのが好きであり、赤ちゃんをわずらわしく思わず、赤ちゃんに奇妙な感じをもたないことが明らかにされた。また、育児については、育児のために世の中から取り残されるとは思わず、育児がつらい仕事とは思わないことが示されている。

今回の古座高校卒業生での検討結果を全国集計の結果と比較すると、赤ちゃんに対する意識では、「赤ちゃんのあやし方がわからない」「赤ちゃんをみると奇妙な感じがする」「赤ちゃんがそばに来ると逃げたくなる」の各項目で、体験学習経験者は“当てはまらない”と答える傾向がみられ、全国集計の結果と同様、赤ちゃんに親しみをおぼえている傾向がみられた。同時に、赤ちゃんのあやし方がわかるなど、赤ちゃんと触れ合ったことによる具体的効果が現れているようである。

育児に関する意識では、「育児は楽しい」とする回答が多く、「育児でしたいことができない」が少ない傾向があり、育児に対し前向きな姿勢が育まれている事が推察される。

しかし、全国集計の結果では「育児をしている女性は疲れて見える」という回答が体験学習経験者で有意に少なかったのに対し、古座高校卒業生では、有意ではないものの体験学習経験者にむしろ多い傾向があり、育児を現実的な出来事ととらえるようになる傾向がうかがえた。

以上より、古座高校卒業生においても触れ合い体験学習が長期（体験後1～7年）にわたって赤ちゃんや育児に対して好意的な見方を熟成する効果があると推察されると同時に、古座高校卒業生では全国集計の結果に比し、赤ちゃんや育児に身近に触れたことがより具体的な効果をあらわしているように見受けられる。

人工妊娠中絶に関する意識では、「絶対すべきでない」という回答が、体験学習経験者にのみ14％みられた。全国集計の結果でも「絶対すべきでない」が有意に多く「やむを得ない時はよい」が有意に少なくなっており、今回の結果は全国的傾向と良く合致していた。

全国集計の検討結果と同様、古座高校における思春期体験学習は、父性・母性の涵養に役立ち、人工妊娠中絶の減少につながる可能性があることを強く示唆する結果であった。

今回の検討では、体験学習未経験者の例数が少ない事、それに関係して回答の検討に際し男女を区別しなかった事など、無視できない問題をかかえている。しかし、育児に対する意識等は調査対象者の社会的立場に強く影響をうける事を考えると、同一地区の同一高校の卒業生のみを対象とした検討は充分意味を持つものであると考えられる。

今後の計画として、①古座高校とほぼ学区が一致する県立高校の卒業生に同一内容のアンケート調査を実施し、対照例数を増やすこと、②初期の卒業生では子どもを持つ例が増えていると考えられ

るので、実際に育児に携わっている親において触れ合い体験学習の経験の有無が育児に対する意識にどういう影響を与えているか等につき検討を行うことを考えている。

■ まとめ

育児に対するイメージでは、体験学習経験者は未経験者に比し、①赤ちゃんのあやしかたがわかり、赤ちゃんをみても奇妙な感じがせず、赤ちゃんがそばに来ても逃げ出したいと思わない②育児は楽しいと思い、育児で自分のしたいことができなくなると思わない、という傾向を得た。

この結果から、体験学習経験者は、赤ちゃんに対してより親近感を持っており、育児に対し前向きな姿勢が育まれている事が推察され、長期的にも体験学習が母性・父性の涵養に有効であることが示唆された。

同時に、有意ではないが、体験学習経験者では「育児で女性は疲れて見える」などの回答がやや増加しており、育児を現実的な出来事としてとらえる傾向がみられた。

人工妊娠中絶に対する意識では、体験学習経験者に「絶対にすべきでない」という回答がみられた。

全国の検討結果と比較して、古座高校の体験学習経験者では、赤ちゃんのあやし方がわかるなど赤ちゃんと接した具体的効果がより強くみられる傾向、育児を現実的な出来事としてとらえるようになる傾向がうかがえた。高齢化率の高い当地方では、赤ちゃんと直接触れ合った体験が具体的で有用な効果を与えている事が推察された。

■ 参考文献

1) 清水凡生．思春期体験学習の短期・長期効果．厚生省心身障害研究平成6年度研究報告書，1995；286-289.
2) 西　弘子，他．高校生と乳児のふれあい体験学習．地域保健，1991；22 (3)：49-59
3) 冨田容枝，他．和歌山県古座保健所における性教育の評価ー乳児体験学習2年後のアンケート結果より．第34回日本公衆衛生学会近畿地方会口演・示説要旨集，1995；60.
4) 冨田容枝．和歌山県古座保健所における乳児健診体験学習．生活教育，1995；41 (6)：13-18.

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

● まとめ

育児に対するイメージでは、体験学習経験者は未経験者に比し、(1)赤ちゃんのあやしかたがわかり、赤ちゃんをみても奇妙な感じがせず、赤ちゃんがそばに来ても逃げ出したいと思わない(2)育児は楽しいと思い、育児で自分のしたいことができなくなると思わない、という傾向を得た。

この結果から、体験学習経験者は、赤ちゃんに対してより親近感を持っており、育児に対し前向きな姿勢が育まれている事が推察され、長期的にも体験学習が母性・父性の涵養に有効であることが示唆された。

同時に、有意ではないが、体験学習経験者では「育児で女性は疲れて見える」などの回答がやや増加しており、育児を現実的な出来事としてとらえる傾向がみられた。

人工妊娠中絶に対する意識では、体験学習経験者に「絶対にすべきでない」という回答がみられた。

全国の検討結果と比較して、古座高校の体験学習経験者では、赤ちゃんのあやし方がわかるなど赤ちゃんと接した具体的効果がより強くみられる傾向、育児を現実的な出来事としてとらえるようになる傾向がうかがえた。高齢化率の高い当地方では、赤ちゃんと直接触れ合った体験が具体的で有用な効果を与えている事が推察された。